

# シナリオ 2



小学生の美穂

## 美穂が通う緑山小学校の教室 地震発生直後

### 【場面設定】

5 時間目、美穂は得意科目である理科の授業を受けているときだった。担任の松本先生は、20 代後半の若い先生で、ちょっとたよりないなあと思うところもあるが、とても話しやすく、美穂は兄のような親しみを感じていた。美穂がそろそろチャイムが鳴る頃かなあと思ったとき、突然、教室がグラグラッと揺れ、立っていた松本先生が大きくよろめくのが見えた。

「地震だ！みんな、机の下に隠れなさい。」

先生が、しりもちをつきながら叫んだ。

教室の戸がガタガタと鳴り、窓ガラスはガシャンという音を立てながら、次々と割れていった。

キャー！という同級生の悲鳴が聞こえてきた。たぶん、自分も叫んでいただろうと思うが、なにせ地震を経験したのは、生まれて初めてのことであり、頭の中が真っ白になっていた。

ゆれがおさまったあと、教室のあちこちから泣き声が聞こえてきた。

割れた窓ガラスで切ったのだろう、腕から血を流している子もいる。

「みんな、大丈夫か？」

「先生、順子ちゃんと真奈美ちゃんが手をケガしています。」

「翔太君も頭から血が出ています。」

生徒たちが泣きながら訴えてくる。

松本は、こどもたちを守らなければならないという強い思いはあるものの、軽いパニック状態となっていた。



### 【議論のポイント】

- ・自分が主人公（松本先生）になったつもりで、状況をイメージし、その行動の中で、起こりうることや気をつけることを考えてみましょう。
- ・日頃から、学校での防災教育、防災訓練で注意すべき点はどんなことでしょうか。

## シナリオ 2 続編

# 美穂が通う緑山小学校の教室

## ～クラスの生徒の安否確認まで

### 【行動シミュレーション】

松本は、混乱しながらも、いま、自分がなさなければならぬことを考えていた。

そうだ、以前にも校内の避難訓練をやったじゃないか。まずは、建物の中は、危険なので、子どもたち全員を校庭へ連れていくことだ。

松本は、**全員がそろっていることと、ケガをしている子どもの状態を確認した。**

ショックで泣きじゃくっているが、歩けないほどの傷ではない。



まず生徒が全員そろっていること、そして生徒の安否を確認します。

だが、**子どもたちを連れ出す前に、安全な避難ルートを確認しておく必要がある。**

また、避難の際に他のクラスの子と階段でぶつかるようなことがあってはならない。これも避難訓練で学んだことだ。

「みんな、聞いてくれ。今から先生が廊下の状況なんかを確認してくるから、もう少し教室で待機していてくれ。

それから、余震があるかもしれないから、**窓際から離れてお**

**くように。」**



松本は、校舎の様子を確認しながら職員室に戻り、教頭の高野先生や他の先生と打合せをしたあと、教室に戻った。

「よし、みんな今からグラウンドへ行くぞ。ケガをしている子には必ず2、3人で付き添ってやれ。

それから、**帽子をかぶれ。**

**座布団がある者は頭の上に当てて行け。」**



窓のそばは危険です。すぐに窓際から離れましょう。

建物から出るときは、細心の注意が必要です。

「先生、教科書はどうするんですか。」

「置いていけ。では、出発するぞ。いいか、決して走ったりしたらダメだぞ。先生のあとをゆっくりとついてきなさい。」

こんな状況ではあるが、美穂は、今日の先生はとてもカッコいいと思った。

あらかじめ、避難ルートを決めていたことと、他のクラスとは時間差で行動をおこしたこともあって、スムーズに校庭へ出ることができた。

行動の邪魔になるものは置いていきましょう。

松本は、再度点呼をとり、全員そろっていることを確認したあと、すぐに保健の堂本先生に3人のケガのことを連絡した。

応急処置をしてもらったところ、出血のわりには、ケガの程度はそれほどたいしたことではないとのことだった。

移動した後は、必ず全員の安否を確認しましょう。

松本は、ほんの少しほっとしたが、いやいや、大変なのはこれからだ、と気持ちを引き締めなおした。

「みんな、しばらくここで待機だ。絶対に勝手に校外へ出たりしないように！」

校外の様子がわからないため、その場で待機させること。

